

まちの遺産

北前船主の館 右近家

右近家は、江戸時代中期から明治中期まで日本海を舞台に、北海道と大阪間の諸港を結んで商いをした北前船の船主の家です。最盛期には、北前船五大船主に挙げられています。

右近家の建物

一連の建物は、旧道を挟んで、山側に本宅と三棟の内蔵、海側に四棟の外蔵が建てられています。本宅は、明治期に天保時代の建物を拡充して建てられ、木造二階建瓦葺きで切妻造りの平入です。横手に式台口の門を配し、長い板塀で本宅を囲っています。

内部は、選りすぐりの檜の柱や、杉・檜・米松の良材を使い、商家として豪華さをおさえた格調高い造りで、上方風の建築と言われています。奥座敷の奥には、崖を借景に北前船が各地から運んで来た銘石の庭園があり茶室もあります。海側には、長屋門を挟んで外蔵が連なり、漆喰壁を下見板で覆っています。長屋門は、海に向かい開かれていて、海に生きる船主の敬けんな祈りを表す河野独特の構えです。

背後の山上には、昭和十年に建てられた西洋館があります。鉄筋コンクリート造りの二階建てで、外観は一階が欧風（スペイン）二階が北欧風（スイス）の丸太積みでバルコニーがあり、内部は和洋折衷です。さらに山上へと散策道で庭園を回遊することが出来、最高台には四阿があり日本海を一望できます。



北前船の資料館として公開

河野集落は、往時の北前船交易で繁栄した船主邸の家並みが昔のままの姿で残されていることから、旧河野村では北前船の歴史むらづくりを企画、右近家のご理解とご協力のもと、平成二年に本宅、庭園、西洋館を「北前船主の館・右近家」と命名し一般公開しました。内部外観とも文化的価値も高く、資料展示は、右近家の北前船交易の歴史や商いの古文書や船模型、航海用具、海上安全祈願の船絵馬、アイヌ民俗など各地の文化交流の貴重な資料を展示しています。

この度、皇太子殿下のご視察を頂き光栄の極みであります。その上、河野北前船研究会へ激励のお言葉を頂き感激しました。これを機に右近家への来訪者が増加し、北前船の全国的な拠点として交流が広がることを願っています。

（河野北前船研究会長・右近了一）

和の風 町長随想

増澤善和

皇太子殿下右近家ご視察

七月三日午後、殿下のお召自動車は予定五分前に右近家前にご到着。お迎えの右近家親族・小中学生などの町民の紹介にうなずかれながらのお手振り。門前でお迎えの町議会議長・右近家当主・右近家保存等に功績のあった副町長や町議会議員を紹介。右近家内のご視察の後、北前船研究者との懇談会が行われた。予定の五分遅れで右近家を出発され、これよりふれあい会館までは全く事前打ち合わせのないご案内となる。内蔵三棟・外蔵四棟・長屋門を説明させて頂いた後、次のようなことについてご下問があった。

「右近家本宅の建築年代」「江戸時代の消防手押ポンプなどについている〳〵印（右近家の船旗印の「一膳箸」）」「外蔵と馬借の関係」「沢山の見送りはありがたいが小学生は？」など。

会館でのご休憩を五分短縮されて玄関に出られ、私や護衛の人達を無視されて国道を横断、大歓声の町民の直前に立たれてお声をかけられたのにはビック

リ。住民からの「殿下、お体は大丈夫ですか」「雅子様、愛子様はお元氣ですか」などの声に、笑顔で御答えになられた。予定の五分遅れでお召自動車は敦賀に向け出発された。

敦賀観光ホテルでの記者会見

①皇太子殿下のお言葉

「古くて立派な右近家では資料を見せて頂いたり、学芸員・研究者・町長とお話などから、北前船の長い歴史について理解を深めることができました。

河野・今泉の地域は私の専門とする中世の海上交通や馬借活動の拠点であるので、以前から大変関心があり、今回直接見聞することができて嬉しく思っています。現地の皆様方に温かく迎えていただき感謝いたします。」

②西川知事の談話

「今日は好天にも恵まれ、多くの県民が殿下をお迎えできたと思います。特に南越前町右近家周辺では、町民の直前まで近づかれ、長時間親しくお声をかけられふれあいを深めて頂き、殿下におかれましても思い出深い行啓となられたことでしょう。」